

平成22年度 学校自己評価一覧シート

教育目標

① 発展性のある学力と高い知性を身に付ける
② 正しい判断力と豊かな情操を身に付ける
③ 強い体力と逞しい気力を身に付ける

本年度の重点目標

① 品位ある西高生
・ 礼節を重んじ、自らを律する態度の涵養 ・ 人権意識の発揚 ・ 環境美化
② 智をみがく西高生
・ 高い志と強い意志・意欲の涵養 ・ 確かな学力の育成 ・ 授業・補習等への積極的な取組
③ 逞しい西高生
・ 文武二道 ・ 学校行事への積極的な参加と取組 ・ 疾病・傷害の未然防止

※達成度は4段階で評価する。
4：大変よくできた。
3：まあまあできた。
2：あまりできなかった。
1：全くできなかった。

愛知県立一宮西高等学校
平成23年1月

項目	本年度の重点目標	具体的方策	中間評価	年度末評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
学校行事 (総務部) (生徒指導部) (各学年会)	式典や集会を通して品位・品格を高める	・式典の意味を認識させた上でのそれに相応しい品位あるみだしなみの定着	生徒の94.1%、職員の92.7%が品位ある身だしなみで式典に臨むように指導していると回答している。しかし、体育館の中で身だしなみを整えたり、職員から注意されて気がつく生徒が少なからず存在する。	品位のない身だしなみで式典に臨む生徒は少ないが、教員から指導されないと動けない者や気づかない者も存在する。式典に向けての指導が不足していると思われる。	3	一時的な指導ではなく、継続した身だしなみ指導を学校として取り組む必要がある。
		・校歌斉唱を通した西高生としての自覚の向上	そう思わないという回答は、職員が16.3%であるのに対して、生徒は43.7%と大きく上回っている。特に3年生では52.5%と過半数に達している。	校歌指導をきちんとしていないと思う生徒の割合は減少しているが、現実の音量は前年とあまり変わらない。	2	式典の前に啓発プリントを入れているが、さらに学年集会などの機会を利用して意識の向上に努めたい。
	P T Aとの連携の促進	・情報交換の充実	中間評価は実施せず。	保護者・職員とも積極的な評価をしている。しかし現実には、職員のP T A活動に対する認識は、まだそれほど高くないと思われる。	3	保護者にはP T A広報誌などで情報発信するとともに、職員には職員会議などで報告して関心を高めたい。
学習指導 (教務部) (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	学習意欲の喚起	・3年間を見通した教科シラバスの積極的活用	中間評価は実施せず。	4月中に配布・説明できた。学校評価アンケートによれば、4割近くの教員・生徒が積極的な評価をしている。これは、教科により進捗表や小テストの予定表を兼ねたものであったり、考査から考査までの短期的なシラバスを補強したりといういろいろな工夫がみられるようになったからである。	2	今年度内にシラバスの改訂を行い、次年度の最初の授業で配布・説明ができるようにする。また、更なる工夫を行い、生徒のみならず、教員も参照せざるを得ないものにしていきたい。
		・分かりやすい授業の研究	中間評価は実施せず。	5月末から6月始めにかけて10日間の授業公開を実施した。教科会においても例年に比べ活発な研究協議が行われ、観る側と観られる側が相互に刺激し合う緊張感が新鮮であったと概ね肯定的な評価であった。また、1学期末に行った生徒による授業アンケートでは、生徒の的確な評価により自己の授業を振り返るいいきっかけになった。	3	生徒の授業アンケートでは、項目毎の割合の集計をして積極的に活用したい。授業公開では他の教科の授業も参観して、生徒がどのような授業を受けているのかを把握し、今後の生徒指導に役立てていきたい。
		・発展性のある学力の育成	中間評価は実施せず。	今年度初めて掲げた目標である。生徒の受身的な学習をどのようにして積極的な学習に高めていか模索の一年であった。授業改善、教材研究、教材の精選、課題の工夫、教科による研究協議等、次年度以降の課題が明らかになってきた。	2	成果がなかなか数字にあらわれにくい内容ではあるが、多くの教員が様々な場面で実感できるよう、生徒に働きかけていきたい。
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	安心安全な学校生活につながる積極的な生徒指導	・生徒の自己防衛意識向上に向けた積極的な啓発活動の展開	生徒の8割以上、教員の9割以上から概ね肯定的な評価を得た。しかしながら、2・3年生では2割弱の生徒が啓発活動に関心がないように思われる。	地域協働生徒指導推進協議会からの不審者情報など、タイムラグなく生徒に連絡をすることができた。しかし高校生活に慣れるにつれて、生徒は自分自身のことと考えられない傾向にある。今後も絶えず啓発活動に努めていきたい。	3	ここ数年6月に実施している不審者被害防止講演会を、男子生徒にも公開して、生徒の自己防衛意識向上に努めていきたい。
		・規範意識と心豊かな人間性の涵養	生徒では、1・2年生の9割以上から概ね肯定的な評価を得たが、若干3年生では低かった。教員においても、3年生と同様な結果であった。	学年が進行すると共に、規範意識が低下していることが伺える。高校卒業の時期には、社会人としての規範意識が確立しているように指導する必要がある。	3	上級生ほど規範意識や規則遵守意識を徹底するために、対策を講じていきたい。
		・交通安全指導の充実	中間評価はせず。	夏季休業以降苦情の電話等は激減したが、交通事故は2学期以降増加した。機会を捉えて絶えず注意を喚起する必要性を感じる。	3	街頭指導や0の日立番指導、交通安全ポスターなど啓発活動の充実を図っていきたい。
進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	進路希望の実現	・努力を前提とした希望進路の設定	ほとんどの教員から肯定的な評価を得た。	高い肯定的な評価である。学年・教科等、指導の各場面で適切な教員の指導ができた。	4	高い目標に向けた継続的な努力をさせられるよう、より一層の工夫が必要である。
		・進路情報の整理・検討と、ニーズに応じた進路情報の提供	教員および生徒とも8割以上の肯定的な評価であったが、1、2年生では若干低めの数値となった。	3年生に比べると、1、2年生に対してはニーズに応えられていない部分がある。	3	低学年が知りたい情報・知らせたい情報について、学年会とも連携をとりながら考えていきたい。
		・補習等の課外学習指導の充実	教員および生徒ともおおよそ9割以上の肯定的な評価であった。勤務時間を超えた教員の指導に対して、高い意識で生徒が応えてくれていると言えるのではない。	部活動や学校行事とのバランスを考えると、時間的には目一杯の状況であるが、生徒はよく努力し、教員も熱心に指導できた。	3	現在の限られた時間の中で成果を上げるために、教科との連携をより強めていきたい。
安全指導 (保健部) (各学年会)	傷害・疾病防止への取り組みと校内美化の推進	・傷害・疾病防止のための意識の向上	中間評価は実施せず。	講習会を始めて4回目となる本年度は、ストレッチの効果や方法を学び、実践することに加えて、テーピングの種類や目的を学んだ。ストレッチについては参加者の71.8%が、テーピングについては56.4%が「十分に知識が得られた」と回答した。	3	実際に体験することによって、より知識が深まると思われるので、来年以降も継続的に実施したいと考えている。
		・救命具操作技術の習得	生徒対象の講習会は53名の参加者のうち、43名(81%)が十分に技術を習得できたことと回答した。教職員は28名中、操作手順がスムーズにできたことと16名(58%)が回答した。毎年講習会に参加して操作手順を再確認することが大事だと思う。	教職員の参加者のうち、6割しか操作がスムーズにできたことと回答できなかった。操作手順の再確認が必要と思われるので今後も実施していきたい。	3	心配蘇生法の操作手順を忘れないように毎年開催して、現場での対応がスムーズに行えるようにしたい。
		・生活環境と清掃に対する生徒の意識高揚	清掃に集中して取り組んだか、素早く取り組んだか、という項目に7割近くの生徒が肯定的な回答をしている。しかし、「あまりできなかったという生徒が2割近くいるので学校環境を清潔に保つことの大切さを教えていきたい。	清掃時に8割近くの生徒が真面目に取り組んで学校環境を良くしようとしている。取り組みの甘い生徒も見られるので、自ら校内美化に取り組むように指導していきたい。	3	清掃の取り組みの、甘い生徒も見られるので、全員清掃を徹底して学習環境を整備していきたい。
部活動 生徒会行事 (生徒会部) (各学年会)	部活動成果の向上と学校行事の充実・発展	・日々の練習の充実	中間評価は実施せず。	学校評価アンケートの結果によると、昨年度に引き続き9割以上の生徒が日々の部活動に参加している。今年度は特に1年生の参加率が97%と高い値を示していた。	4	引き続き部活動への参加を促すと共に、日々の練習が充実するように、部活動の備品や活動場所の整備を積極的に進めたい。
		・委員会活動の活性化と生徒の主体的な参加	中間評価は実施せず。	委員会活動を中心に、行事の計画及び実施が進行するように心がけた。アンケートの結果によると、学校行事において中心的な役割を担う生徒が3割程度で、その生徒と共に活動する生徒が5割程度と考えられる。	3	生徒が主体的に関わるように、委員会や生徒議会を通してクラスへの指導を行ってほしい。また、行事の中心的な役割を担う生徒の育成に努めたい。
読書指導 (図書部) (各教科会) (各学年会)	積極的な図書館利用の推進	・図書委員による行事活動の充実	図書委員のアンケートをもとに、初夏の企画展のテーマを考えた。1・2年生の遠足や修学旅行での短歌・俳句の展示も行った。例年よりも短期間での準備であったが、執行部を中心に工夫した展示ができた。	初夏に続き、秋の企画展も、昨年より準備期間が短かったが、充実した展示ができた。企画展中の来館した生徒の数は昨年よりやや多かったが、生徒全体の2割を切っている。しかし、来館者の8割以上は高く評価してくれている。	3	企画展のテーマ選択、展示、広報などの方法を工夫し、忙しい中でも少しでも生徒に図書館へ足を向けさせるようにしていきたい。
		・生徒の読書推進	6月までの貸出冊数を比較すると、20年度891冊、21年度886冊、22年度761冊と減少傾向にある。来館者数は増加している。	「図書館だより」「Library News」を「毎回読む」「ほとんど毎回読む」生徒は、全体の4割ほどで、昨年よりやや増えている。貸出冊数はやや少なめだが、「新刊案内」を見て、本を借りにくる生徒もいる。	3	「暇がない」・「興味のない」生徒に対して、少しでも興味・関心を持たせるよう、本の選定・紹介に努めていきたい。
		・利用しやすい図書館への工夫	中間評価は実施せず。	総合学習や、保健の授業での利用があった。「朝日けんさくくん」の利用や、資料の提供も一定程度できた。	3	各教科からの要望を受け図書や資料の整備・充実を図り、利用しやすい図書館となるよう努めていきたい。